

伊万里地区新高校整備推進委員会 における検討のまとめ

平成16年7月

伊万里地区新高校整備推進委員会

目 次

	頁
1 検討の趣旨	1
2 検討経過	1
3 検討結果	
(1) 教育理念	3
(2) 重点方針	3
(3) 設置学科	6
(4) 教育課程	8
(5) 教職員の配置	14
(6) 施設設備	15
(7) 実習地までの生徒の移動対策	17
(8) 具体像に対する効果と課題の整理	19
(9) 地域関係者等との意見交換の概要	21

参 考 資 料

1. 第一次実施計画と検討結果のとりまとめ	28
2. 新高校整備推進委員会設置要領	29
3. 伊万里地区新高校整備推進委員会委員名簿	32

1 検討の趣旨

社会の変化や学校教育に対する生徒・保護者のニーズの多様化、少子化による大幅な生徒減少等が進む中、これから高等学校で学ぶ子どもたちにとって望ましい教育環境の整備・確保を図るため、県立高等学校の再編整備に取り組まれている。

平成14年10月に佐賀県立高等学校再編整備第一次実施計画が策定され、その計画において、伊万里商業高校と伊万里農林高校を再編統合し、総合選択制を導入した新しい高校（伊万里地区新高校）の設置が計画された。

その後、平成15年7月に、第一次実施計画に対する検討結果の取りまとめが公表され、専門高校グループの再編計画については、引き続き検討を行うこととされた。そして、再編統合によって生まれる新高校の具体像（教育内容、施設整備等）を明確にし、その効果と課題などを明らかにするとともに、アンケート調査の結果や関係者の意見などを参考にしながら、総合的に検討し、平成16年度中に、結論が得られるよう努めることとされた。

このため、伊万里商業高校と伊万里農林高校の再編計画についても、平成15年9月に、両高校及び県教育委員会の教職員からなる伊万里地区新高校整備推進委員会を立ち上げ、教育内容や施設整備など、新高校の具体像や、再編に伴う効果・課題等について、検討を行ってきた。

ここに、伊万里地区新高校整備推進委員会として、検討結果の概要を取りまとめるものである。

2 検討経過

平成15年9月以降、平成15年度に6回、平成16年度に3回、伊万里地区新高校整備推進委員会を開催し、具体的な学科名や教育課程案、それに伴い必要となる施設設備等について、慎重に検討を行ってきた。

その中で、第4回委員会では、地元関係者、同窓会関係者、PTA関係者から、意見聴取を行うとともに、第9回委員会では、この意見聴取内容に対する、現段階での、県教育委員会としての基本的考え方を示し、意見交換を行った。

なお、この委員会については、公開とし、その都度、県のホームページ等を通じて、開催案内や協議概要等の報告を行うなど、県民に対する情報提供にも努めてきた。

これまでの委員会開催日、及び、主な審議内容の概要は、表1のとおりである。

[表1：伊万里地区新高校整備推進委員会開催期日、及び審議内容の概要]

	開催期日	審議内容の概要	備考
1	平成15年 9月10日(水)	・「第一次実施計画に対する検討結果の取りまとめ」の報告 ・今後のスケジュール確認	
2	平成15年10月29日(水)	・両校からの報告事項 ・教育課程編成に当たっての課題等 ・今後のスケジュール	
3	平成15年12月22日(月)	・両校からの報告事項(選択科目) ・教育課程編成に当たっての課題等 ・その他の課題	
4	平成16年 1月28日(水)	・伊万里地区新高校の具体像についての意見聴取	地域、同窓会、PTA等からの意見聴取
5	平成16年 2月20日(金)	・教育課程 ・教室・施設の利用条件、利用率 ・実習地への移動	
6	平成16年 3月19日(金)	・平成15年度検討内容に係るまとめ(案)の作成について	
7	平成16年 5月17日(月)	・平成15年度検討経過説明 ・施設・設備 ・時間割作成における課題	
8	平成16年 5月27日(木)	・本委員会における検討のまとめ作成に向けての検討 ・施設・設備について両校から報告	
9	平成16年 6月 1日(火)	・地域、同窓会、PTAとの意見交換 ・本委員会における検討のまとめ、確認	

3 検討結果

実施計画案を基に、伊万里商業高校と伊万里農林高校を再編統合し、新しい高校（農業科2学級、商業科4学級）を設置した場合における、具体的な学校像（教育理念、重点方針、設置学科、教育課程等）及び効果・課題等について、以下のとおり検討を行った。

（1）教育理念

＜教育方針＞

人格の完成を目指し、社会の変化に主体的に対応できる能力を養うとともに、勤労と責任を重んじ、自主的精神に充ちた地域産業の発展に貢献できる人物を育成する。

＜教育目標＞

- ① 逞しく生きる人材の育成に努める。
- ② 礼儀を重んじ、豊かな心をもつ人材の育成に努める。
- ③ 真理を愛し、常に学究的で、正しい判断ができる人材の育成に努める。
- ④ 学業と部活動を両立させ、調和のとれた人材の育成に努める。
- ⑤ 責任を重んじ、勤労を尊び、地域社会に貢献できる産業人の育成に努める。

（2）重点方針

＜学校運営の重点＞

- ① 教職員の共通理解のもと、生徒と一体となって、地域社会の期待に応える望ましい学校づくりに努める。
- ② 家庭や地域社会との連携を密にし、小中学校教育にも貢献できる地域に開かれた特色ある学校づくりに努める。
- ③ 基礎学力を重視するとともに、進学指導や資格取得指導の支援を充実し、生徒一人一人の進路希望の達成を目指す。
- ④ 勤労精神に富み、礼儀正しく相手を尊重できる人間性豊かな人材の育成に努める。
- ⑤ 教職員の校内研修を組織的・継続的に進め、専門性や使命感の高揚に努める。

＜教科指導の重点＞

- ① 生徒一人一人の基礎学力の充実を図るとともに、自ら学ぶ力を身につけさせる。
- ② 日々の授業を大切にすることを基本に置き、評価を適切に行い学習指導の充実を図る。
- ③ 将来の農業生産、流通、商業のスペシャリストとして、より高度な専門性を身につけさせる。
- ④ 総合選択制の導入により、個に応じた指導の充実を図る。

＜進路指導の重点＞

- ① 計画的・組織的な進路指導の充実を図り、適切な情報提供に努める。
- ② 一人一人の興味関心・特性等に応じ、主体的に進路選択ができる能力や態度を育成する。
- ③ 体験的な学習活動や勤労体験を通して、望ましい勤労観・職業観の育成を図る。
- ④ 進路先の学校、事業所等との連携を深め、進路希望達成を支援する。

<生徒指導の重点>

- ① 集団生活を通じて、規律正しい生活習慣を身につけさせる。
- ② お互いの個性を尊重し、他人を思いやる心の育成を図る。
- ③ ホームルーム活動、部活動などを通して、生徒の公民的資質の向上を図る。
- ④ 全職員の共通理解のもと、いろいろな機会を通じて相談活動に努め、生徒理解を進める。

伊万里地区新高校のコンセプトについて

伊万里地区新高校は、港湾物流機能を備えた国際交易都市として、あるいは伊万里梨や伊万里牛など国内有数のブランド品を産み出す農業都市として発展してきた伊万里地区にあって、商業教育と農業教育との融合による新しい専門学科タイプの県立高校であり、21世紀の社会を広く見据え、時代の進展に応じて、継続・発展できる学校を目指すものである。

まず、商業においては、伊万里港が東アジア・東南アジアへのゲートウェイとしての発展が期待されている中で、地場産業の充実・発展が求められ、生産や流通を支える基盤としての役割が高まっている。こうした中で、商業教育には、豊かな人間性を育み、一人一人の個性を尊重し、能力を十分に伸ばさせるとともに、急速に進展している高度情報化、国際化、及び経済社会の変化に主体的に対応できる幅広い人材の育成が求められている。

次に、農業については、伊万里地区が育て上げた農産物を引き続き生かすとともに、中山間地の農林業及び関連産業のさらなる発展を目指す必要がある。こうした中で、農業教育についても、安定した食糧供給を担う後継者育成としての役割に加え、近年関心が高まってきた「食の安心・安全」、「食農教育」、「環境の保全」を基盤として、将来的に、「生産から流通までを見通した農業経営」など、多様な取組みに対応できる人材の育成が求められている。

これらを踏まえ、新高校は、商業科、農業科、それぞれの学科で学ぶ教科内容を基礎としながら、地域の特性を踏まえ、多様なニーズに応えるため、総合選択制を導入し、それぞれの学科の枠を越えて学習できるようにする。

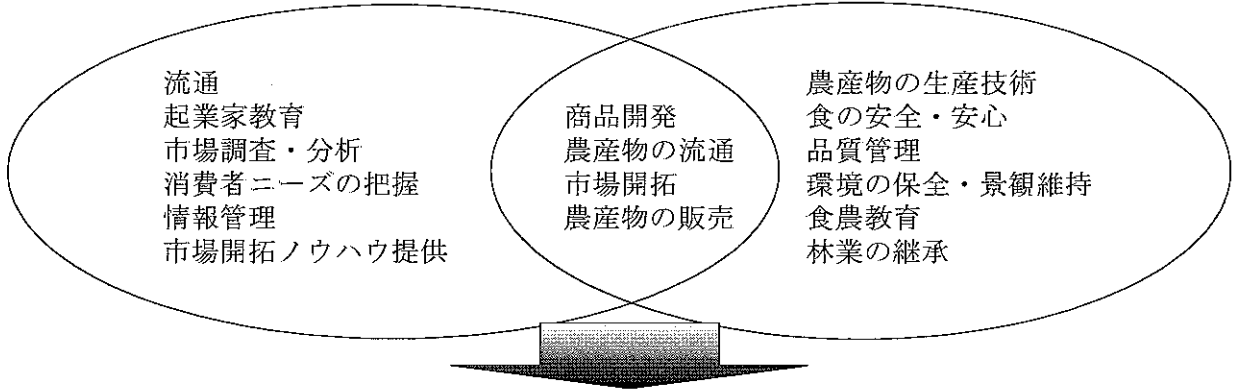
こうした学習を通して、経済発展を担う人材として、また、農林業の担い手として、望ましい職業観・心構えを身につけさせるとともに、相互の連携を促進する産業人としての知識と教養の習得を目指す総合選択制の専門高校とする。

〔図1：伊万里地区新高校のイメージ図〕

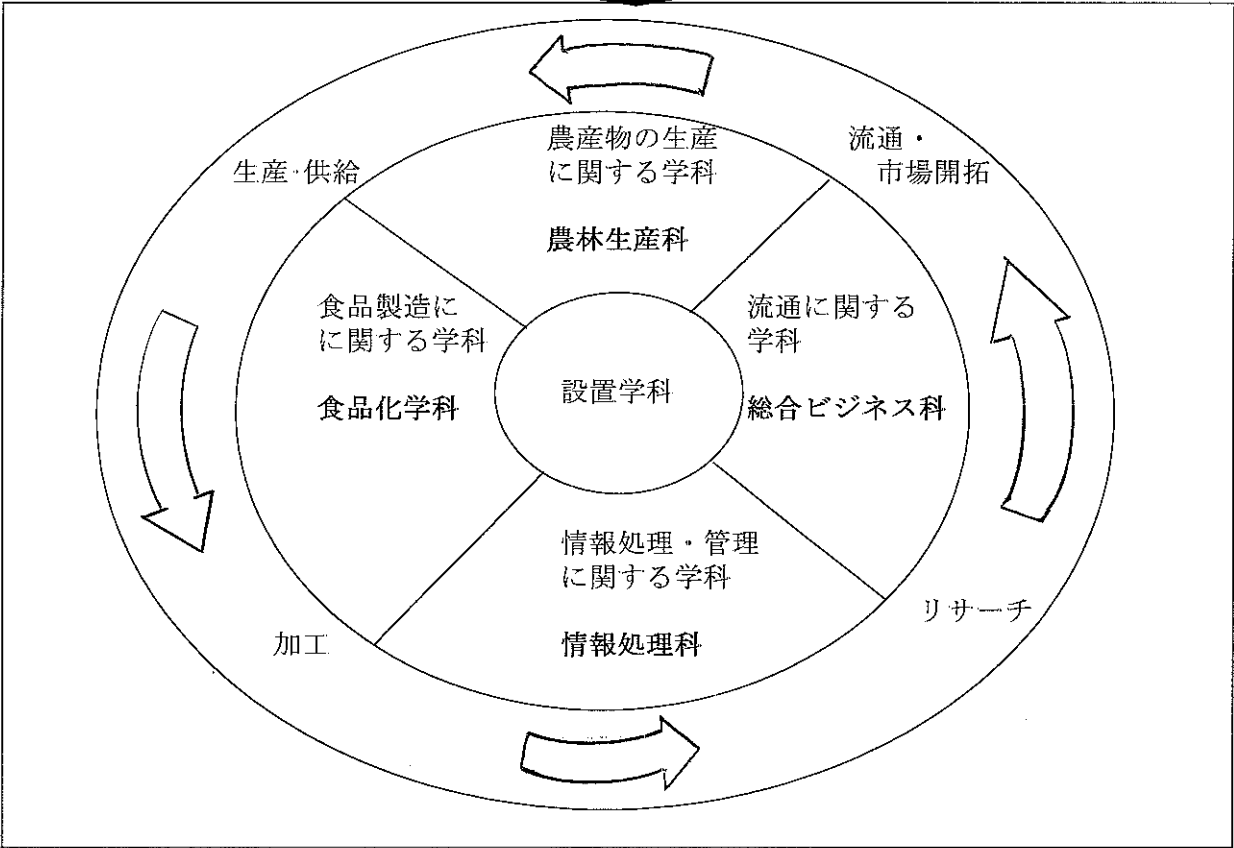
＜基本コンセプト＞

商業教育に求められているもの

農業教育に求められているもの



地域の産業の発展に貢献する人材教育を行う専門高校



(3) 設置学科

農業科は1学年2学級2学科、商業科は1学年4学級2学科とし、次のような学科構成とする方向で検討した。

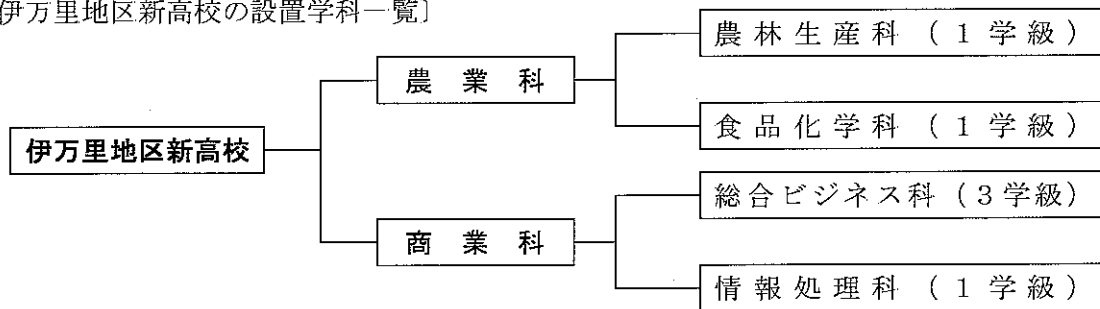
農業科については、2学級2学科（農林生産科、食品化学科）とする。なお、「農林生産科」は、農林生産物に関する学科で、農産物を中心とする生産・経営技術や森林の育成及び林産加工・供給について選択的に学べる学科、「食品化学科」は、食品製造に関する学科で、農産物加工を学べる学科とする。

なお、「農林生産科」では、選択科目として生物生産と林業関連の科目を置き、生徒の興味・関心、進路希望等に対応できるようにする。

商業科については、4学級2学科（総合ビジネス科、情報処理科）とする。なお、「総合ビジネス科」は、ビジネスに関する基礎的な学習を通じて、経済社会の仕組みを学ぶ学科とし、「情報処理科」は、高度情報社会で必要なソフトウェアの基礎的な知識・技術を学ぶ学科とする。

なお、商業ビジネス科では、選択科目として、ビジネス系と進学系の科目を置き、生徒の興味・関心、進路希望等に対応できるようにする。

[伊万里地区新高校の設置学科一覧]



【農業科】

<農林生産科（1学級）>

農業や林業に関する幅広い知識や技術を習得させ、生産や流通に従事する者として必要な能力・態度を育てる。また、自然環境の保全や地域社会の特性を踏まえて、地域の関連産業・環境保全に貢献できる専門的な知識を有する産業人を育てる。

農林生産科

植物、動物、林業などの系列科目を専攻別に学習する。

作物、果樹、野菜、草花などの植物の栽培・管理、家畜・動物の飼育・管理を通して農業に関する幅広い知識や技術を体験する。

また、森林の育成と環境を科学的に理解する能力を育成するため、木材の生産、加工、供給をはじめ、緑の持つ多面的な機能を学ぶ。

<食品化学科（1学級）>

広く食品産業界の実態を理解し、郷土の食の向上に努めるとともに、食品の製造・貯蔵・品質管理・流通に関する多様な学習を通して、幅広い知識・技術を身に付け、食品製造業および関連企業に従事できる能力と態度を育てる。また、食品化学や微生物バイオなど、食品分析、発酵実験などを通して食品衛生に関する知識など食の安全について、専門の知識を有する産業人を育てる。

食品化学科

食品製造、食品化学、微生物バイオを中心に学習する。

食品加工の原理と方法、食品の成分分析、食品の衛生管理、加工原材料を理解した技術者を育成するため、食の素材の生産から加工まで一貫した知識と技術を学ぶ。また、食品の貯蔵・流通や食品の安全性、加工・貯蔵における衛生面などについて基礎的な知識・技術を学ぶ。

【商業科】

<総合ビジネス科（3学級）>

ビジネスに関する知識や技術を身につけ、実習・体験学習を通して商業に関するスペシャリストの育成を目指す。また、人を愛し、礼節を守り、勤労と責任を重んじ、奉仕の心を自覚し、自主独立の精神に充ちた人物を育成する。

総合ビジネス科

：（主要科目）簿記、会計、商業技術、情報処理、総合実践

ビジネス関係選択科目 簿記、会計、商業技術、情報処理
（特色）経済・経営に関する幅広い知識の習得及び最新のOA機器を習熟し、将来の企業人としての能力を育成する。

<情報処理科（1学級）>

情報処理や商業経済についての専門的な技術や知識を広く身に付け、マルチメディアやインターネットなど高度情報化社会に対応できる人材を育成する。また、人を愛し、礼節を守り、勤労と責任を重んじ、奉仕の心を自覚し、自主的精神に充ちた人物を育成する。

情報処理科

：（主要科目）情報処理、プログラミング、ビジネス情報

（特色）IT社会に主体的に対応できる知識や能力を育成するとともに、商業経済についても幅広く学習する。

【資格取得】

- 新高校において取得可能な主な資格は、
 - ・農業系・・・危険物取扱者（丙種、乙種）、測量士補、ボイラー取扱技能者
 - ・商業系・・・情報処理検定、商業経済検定、簿記検定、販売士検定
- などであり、現在とほぼ同様の内容を維持することが可能である。

(4) 教育課程

1つの学校に農業科と商業科といった2つの専門学科を置き、それぞれの専門性は維持しつつ、学校の特色づくりの一貫として、総合選択制を導入することとしていることから、教育課程の検討に当たっては、普通教科と専門教科、及び総合選択制導入に伴う選択科目群に分けて、検討を行った。

なお、運用に当たっては、必修教科と選択必修科目（各学科で指定）、及び総合選択科目で構成し、効果的な教育展開を図る。

・必修科目 (普通教科、専門教科)	全員に履修を義務づけた科目
・選択必修科目(専門教科)	所属する学科(農業科、商業科)で指定された科目群で、指定された単位数に応じて、選択履修することを義務づけた科目
・総合選択科目 (普通教科、専門教科)	学科の枠を越えて、興味関心・進路に応じて選べる選択科目で、「自学科科目群」、「他学科科目群」、「普通科科目群」を設定

※必修科目は、必履修科目の意味である。

<普通教科>

- ① 基本的に、農業科と商業科の履修科目と単位数をそろえる。
- ② 基本的に、農業科と商業科の総単位数(設定科目数)と履修科目は共通とするが、商業科の進学系については、一部普通教科について増単位を行う。
- ③ 上級学校への進学を希望する生徒が増加している状況等もあることから、総合選択制導入に伴う選択科目群の中には、普通教科・科目も置き、生徒の選択履修を可能とする。

<専門教科>

- ① 専門教科については、基本的に両校のこれまでの教育内容を引き継ぐものとする。
- ② 農業科については、農業関連の各分野に精通した人材の育成をめざす観点から、各種資格の取得なども可能となるよう、多様な教科・科目を設定する。
- ③ 商業科については、人と人とのコミュニケーションを大切に、ビジネスに関する知識や技能を身につけた人材の育成をめざす観点から、実習や体験学習をできる限り多く取り入れる。
- ④ 農業科と商業科を併置し総合選択制を導入し、多様な選択肢を用意するとしながらも、入学した学科の専門性を維持する理由により、それぞれの学科について、25単位(学習指導要領で示された最少単位数)は、越えることを前提とする。

伊万里地区新高校の教育課程案 商業 4クラス (2学科) 農業 2クラス (2学科) Aタイプ

	1	2	3	4	5	6	8	9	10	11	12	13	14	15	16	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30			
商業	総合ビジネス科 ビジネスコース	英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記		
		英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	
農業	総合ビジネス科 ビジネスコース	英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	
		英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記
商業	総合ビジネス科 ビジネスコース	英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	
		英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記
農業	総合ビジネス科 ビジネスコース	英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記
		英語総合	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	現代文	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記	簿記

2年	選択A (2単位)	数学II 美術II オーラル・コミュニケーション
	普通	簿記 商業技術 商品と流通 マーケティング 経済活動と法 食品製造 植物バイオテクノロジー

3年	選択B (2単位)	国語表現I 数学A 数学B 生物I 英語II 簿記 商業技術 商品と流通 マーケティング 経済活動と法 文書デザイン 食品製造 農業情報処理 植物バイオテクノロジー 測量
	選択C (3単位)	英語II 政治・経済 数学II 簿記 商業経営 国際ビジネス 英語実務 ビジネス情報 造園技術 食品流通 生物活用

農林生産科 2・3年次専攻
植物 (果樹・野菜・草花)
動物 (動物科学・動物バイオ・畜産)
林業 (森林科学・測量/森林経営・林産加工)

- ① (選択A) 食品製造選択者は、原則として3年次も継続履修する。
- ② (選択A) 数学II選択者は、原則として3年次も継続履修する。
- ③ (選択B) 数学AIは、ビジネスコースのみ選択可能。

教科・科目	学 科 類 型 標準単位	総合ビジネス科								情報処理科科				備考
		ビジネスコース				進学コース				1年	2年	3年	合計	
		1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計					
国語	国語表現Ⅰ	2		★2	0,2			3	3			★2	0,2	
	国語総合	4	4		4	4			4	4			4	
	現代文	4		3	2	5		4	4		3	2	5	
地歴	世界史A	2		2	2		2		2		2		2	
	日本史A	2			△2	0,2		△2	0,2			△2	0,2	
	地理A	2			△2	0,2		△2	0,2			△2	0,2	
公民	現代社会	2	2		2	2			2	2			2	
数学	数学Ⅰ	3	2	2	4	2	2		4	2	2		4	
	数学Ⅱ	3		□2	☆3	0,5		□2	☆3		□2	☆3	0,5	
	数学A	2			★2	0,2			2			2	2	
	数学B	2						★2	0,2			★2	0,2	
理科	理科総合A	2		2	2		2		2		2		2	
	理科総合B	2	2		2	2			2	2			2	
	化学Ⅰ	3			◇3	0,3		◇3	3,0					
体育	体育Ⅰ	3			◇3,★2	0,2,3,5		◇3,★2	0,2,3,5			★2	0,2	
	保健体育	7~8	2	2	3	7	2	2	3	7	2	2	3	7
芸術	音楽Ⅰ	2												
	美術Ⅰ	2	2			2	2		2			2	2	
	美術Ⅱ	2		□2		0,2		□2	0,2					
外国語	オラル・コミュニケーションⅠ	2		□2		0,2		□2	0,2		□2		0,2	
	英語Ⅰ	3	3			3	3		3	3			3	
	英語Ⅱ	4		3	2	5		3	★2	3,5		3	★2	3,5
	リーディング	4						3	3					
家庭	家庭基礎	2			2	2		2	2			2	2	
	家庭総合	4												
情報	情報A	2												
	情報B	2												
	情報C	2												
普通教科小計			18	18,17	15,16,17,19	47,49,50,51,52,54	18	16,18	18,20,21,23	62,54,55,56,57,59	16	15,17	13,15,16,18	44,45,47,48,49,51
商業	ビジネス基礎	2~4	2			2	2		2	2			2	
	課題研究	2~4			3	3			3			4	4	
	総合実践	2~4			3	3			3			3	3	
	商業技術	2~4		4		4		3	3			☆3	0,3	
	商品と流通	2~4		■2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4
	マーケティング	2~4		□2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4
	経済活動と法	2~4		■2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4
	国際ビジネス	2~4			☆3	0,3			☆3	0,3			☆3	0,3
	簿記	2~5	4	4		8	5		5	5			5	
	会計	2~4			4	4		4	4		4		4	
	原価計算	2~4		■4		0,4		4	4		3		3	
	会計実務	2~4												
	英語実務	2~4			☆3	0,3			☆3	0,3			☆3	0,3
情報処理	2~4	4			4	3			3	5		5		
ビジネス情報	2~4			☆3	0,3			☆3	0,3			4	4	
文書デザイン	2~4			★2	0,2			★2	0,2			★2	0,2	
フロンタラミンク	2~6									5		5		
農業	食品製造	2~8		□2	★2	0,4		□2	★2	0,4		□2	★2	0,4
	植物バイオテクノロジー	2~8		□2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4		□2	★2	0,2,4
	食品流通	2~6			☆3	0,3			☆3	0,3			☆3	0,3
	生物活用	2~6			☆3	0,3			☆3	0,3			☆3	0,3
専門教科小計			10	12,14	10,12,13,15	32,34,36,37,39	10	11,13	6,8,9,11	27,29,30,31,32,34	12	12,14	11,13,14,16	35,37,38,39,40,42
総合的な学習の時間			1			1	1		1	1			1	
ホームルーム活動			1	1	1	3	1	1	1	3	1	1	1	3
総合計			30	30	30	90	30	30	30	90	30	30	30	90

□☆★は総合選択制に係る選択科目で、△◇はその他の選択科目である。■2+■2と■4いずれか選択、食品製造選択者は原則として2・3年次計4単位を履修する。
 商業科「総合的な学習の時間」は1年次1単位と課題研究(ビジネス・進学各3単位、情報処理4単位うち2単位)で代替する。
 「情報C」を1年次の「情報処理」で代替する。
 数学Ⅱは2年次の選択Aと3年次の選択Cの継続履修とする。
 食品製造選択者は原則2・3年次の継続履修とする。

教科・科目		学 科 類 型 標準単位	農林生産科				食品化学科				備 考
			1年	2年	3年	合計	1年	2年	3年	合計	
国 語	国語表現 I	2			★2	0.2			★2	0.2	
	国語総合	4	4			4	4			4	
	現代文	4		2	2	4		2	2	4	
地 歴	世界史 A	2		2		2		2		2	
	日本史 A	2			△2	0.2			△2	0.2	
	地理 A	2			△2	0.2			△2	0.2	
公 民	現代社会	2	2			2	2			2	
	政治・経済	2			☆3	0.3			☆3	0.3	
数 学	数学 I	3	2	2		4	2	2		4	
	数学 II	3		□2	☆3	0.5		□2	☆3	0.5	
	数学 A	2			2	2			2	2	
	数学 B	2			★2	0.2			★2	0.2	
理 科	理科総合 A	2		2		2		2		2	
	理科総合 B	2			2	2	2			2	
	化学 I	3							2	2	
体 育	体育	7~8	2	3	2	7	2	3	2	7	
	保健	2	1	1		2	1	1		2	
芸 術	音楽 I	2	○2			0.2	○2			0.2	
	美術 I	2	○2			0.2	○2			0.2	
	美術 II	2		□2		0.2		□2		0.2	
外 国 語	ホーラル・コミュニケーション I	2		□2		0.2		□2		0.2	
	英語 I	3	3	2		5	3	2		5	
	英語 II	4			★2☆3	0.2, 3, 5			★2 ☆3	0.2 3, 5	
	リーディング	4									
家 庭	家庭基礎	2	2			2	2			2	
	家庭総合	4									
情 報	情報 A	2									
	情報 B	2									
	情報 C	2									
普通教科小計			20	14, 16	10, 12 15	34, 36, 37 39, 41	20	14, 16	10, 12 15	34, 36, 37 39, 41	
農 業	農業科学基礎	2~6	2			2	2			2	
	課題研究	2~6			2	2			2	2	
	総合実習	2~12	2	2		4	2	2	2	6	
	農業情報処理	2~6	2	2	★2	4, 6	2	2	★2	4, 6	
	作物	2~8			2	2					
	野菜	2~8		○2	○6	0, 2, 8					
	果樹	2~8		○2	○6	0, 2, 8					
	畜産	2~8		○2	○2	0, 2, 4					
	農業経営	2~6			2	2					
	農業機械	2~6		2	△2	2, 4					
	食品製造	2~8		□2		0.2	2	2	2	6	
	食品化学	2~8						2	3	5	
	微生物基礎	2~6						2	3	5	
	農業経済	2~6									
	食流通	2~6						2	☆3	0, 2, 5	
	植物バイオテクノロジー	2~6	△2	□2	△2	0, 2, 4, 6					
	動物・微生物バイオ	2~6		○2	○2	0, 2, 4			2	2	
	森林科学	2~8		○2	○2	0, 2, 4					
	森林経営	2~8			○2	0.2					
	林産加工	2~8		○2	○2	0.2, 4					
造園技術	2~8			☆3	0.3			☆3	0.3		
草花	2~8		○2	○6	0, 2, 8						
測物	2~8	△2	○2	○2	0, 2, 4, 6			★2	0.2		
動物科学	2~10		○2	○2	0, 2, 4						
商 業	商業技術	2~4		□2	★2 ☆3	0, 2, 3, 4, 5		□2	★2 ☆3	0, 2, 3, 4, 5	
	簿記	2~5		□2	★2 ☆3	0, 2, 3, 4, 5		□2	★2 ☆3	0, 2, 3, 4, 5	
	商品と流通	2~4		□2	★2	0, 2, 4		□2	★2	0, 2, 4	
	マーケティング	2~4		□2	★2	0, 2, 4		□2	★2	0, 2, 4	
	経済活動と法	2~4		□2	★2	0, 2, 4		□2	★2	0, 2, 4	
	国際ビジネス	2~4			☆3	0.3			☆3	0.3	
	英語実務	2~4			☆3	0.3			☆3	0.3	
	ビジネス情報	2~4			☆3	0.3			☆3	0.3	
文書デザイン	2~4			★2	0.2			★2	0.2		
専門教科小計			8	12, 14	14, 17 19	34, 36, 37 39, 41	8	12, 14	14, 17 19	34, 36, 37 39, 41	
総合的な学習の時間			1	1		2	1	1		2	
ホームルーム活動			1	1	1	3	1	1	1	3	
総 合 計			30	30	30	90	30	30	30	90	

※総合実習については、各学年の1単位の時間外総合実習を実施。
 「情報C」(2単位)は、1年次の「農業情報処理」(2単位)で代替する。
 数学IIは2年次の選択Aと3年次の選択Cの継続履修とする。

③ 総合選択制導入に伴う選択科目群

2年次（2単位～選択A）、3年次（2単位+3単位～選択B、C）において開講する科目群は以下の通りである。

農業科、商業科の生徒とも、特に指定がない限り、本人の希望により、それぞれの科目群から1科目を選択し、履修することとなる。

	2年次		3年次			履修単位数	
	選択A		選択B		選択C		
普通			国語表現 I			0, 2	
					政治・経済	0, 3	
	数学 II	○	数学 A 数学 B		数学 II	○	0, 2 0, 5 0, 2
			生物 I				0, 2
	オーラルコミュニケーション I		英語 II	□	英語 II	□	0, 2 0, 5
	美術 II						0, 2
農業	植物バイオテクノロジー- 食品製造	* ※	農業情報処理	* ※		0, 2	
			植物バイオテクノロジー- 食品製造			0, 2	
						食品流通 生物活用	0, 4 0, 3
			測量			0, 3	
						造園技術	0, 2 0, 3
商業	簿記 商業技術 商品と流通 マーケティング 経済活動と法	★ ★	簿記	★ ★	簿記	★ ★	0, 2, 3, 4, 5
			商業技術		商業技術		0, 2, 3, 4, 5
			商品と流通				0, 2, 4
			マーケティング				0, 2, 4
			経済活動と法				0, 2, 4
				国際ビジネス 英語実務 ビジネス情報	0, 2 0, 3 0, 3 0, 3		

(注意)

- ・ ○印の科目は、2年次の選択Aと選択Cをセットで5単位履修
- ・ *印の科目は、2単位分（又は3単位分）のみの履修が前提
- ・ ※印の科目は、2年次の選択Aと3年次の選択Bの4単位継続履修
- ・ □印の科目は、3年次の選択Bと選択Cをセットで5単位履修
- ・ ★印の科目は、2年次の選択Aと3年次の選択B又は選択Cのいずれかを継続履修